

○水生生物モニタリング調査結果一覧（太田川F）

<太田川F 水質底質採取項目>

項目	一般分析項目		放射性物質分析項目			
	水質	底質	水質 (Cs)	水質 (Sr)	底質 (Cs)	底質 (Sr)
F - 1	○	○	○	○	○	○

<太田川F 現場測定項目>

項目	調査緯度・経度		調査日時		水質	底質			その他			
	緯度	経度	日	時刻 (水)		水温 (°C)	泥温 (°C)	性状	色相	混入物	全水深 (m)	透視度 (cm)
F - 1	37.5975°	140.9252°	R6.6.27	09:02	09:13	19.8	20.1	砂	2.5Y4/2	なし	0.40	>50

<太田川F 一般分析項目・放射性物質分析項目 水質>

項目	調査緯度・経度		調査日時		pH	BOD (mg/L)	COD (mg/L)	DO (mg/L)	電気伝導率 (mS/m)	塩分 (mg/L)	TOC (mg/L)	SS (mg/L)	濁度 (度)	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)	Sr-90 (Bq/L)
	緯度	経度	日	時刻												
F - 1	37.5975°	140.9252°	R6.6.27	09:02	7.5	0.7	2.8	9.6	6.4	0.04	1.2	1	0.9	N.D. (0.0016)	0.064	0.0032

注) N.D.は、not detected(検出下限値未満)を示し、括弧内の数字は検出下限値を示す。

<太田川F 一般分析項目・放射性物質分析項目 底質>

項目	調査緯度・経度		調査日時		pH	酸化還元電位 E _{NHE} (mV)	含水率 (%)	IL (%)	TOC (mg/g-dry)	土粒子の密度 (g/cm ³)	粒度組成						Cs-134 (Bq/kg-dry)	Cs-137 (Bq/kg-dry)	Sr-90 (Bq/kg-dry)		
	緯度	経度	日	時刻							(2~75mm) (%)	粗砂 (0.85~2mm) (%)	中砂 (0.25~0.85mm) (%)	細砂 (0.075~0.25mm) (%)	シルト (0.005~0.075mm) (%)	粘土 (0.005mm未満) (%)	中央粒径 (mm)	最大粒径 (mm)			
F - 1	37.5975°	140.9252°	R6.6.27	09:13	7.1	482	22.1	1.3	2.3	2.640	20.0	32.2	38.6	5.1	0.4	3.7	0.90	4.8	4.4	350	0.47

注) N.D.は、not detected(検出下限値未満)を示し、括弧内の数字は検出下限値を示す。

＜太田川F 分析項目 水生生物＞

地点	採取場所	調査緯度・経度		採取日	門	綱	目	科	学名	和名	個体数	採取重量(kg-wet)	特記事項			放射性セシウム(Bq/kg-wet)			Sr-90(Bq/kg-wet)	
		緯度	経度										成長段階	消化管内容物	測定部位	計	Cs-134	Cs-137		
F-1	太田川本流	37.5975°	140.9252°	R6.6.23		藻類・植物	一	一	一	一	河床付着物(藻類を含む)	—	0.0050	—	—	130	N.D.(19)	130	—	
						節足動物	昆虫	カワゲラ	カワゲラ	<i>Kamimuria tibialis</i>	カミムラカワゲラ	303	0.011	幼虫	—	6.1	N.D.(3.7)	6.1	—	
						節足動物	昆虫	カワゲラ	カワゲラ	<i>Neoperla</i> sp.	フタツメカワゲラ属									
						節足動物	昆虫	トビケラ	ヒケナガカワトビケラ	<i>Stenopsyche marmorata</i>	ヒゲナガカワトビケラ	88	0.015	幼虫	—	64	N.D.(11)	64	—	
						節足動物	昆虫	トンボ	エリトンボ	<i>Macromia amphigena amphigena</i>	コヤマトンボ	136	0.034	幼虫(ヤゴ)	—	27	N.D.(3.9)	27	—	
						節足動物	昆虫	トンボ	サエトンボ	<i>Stylogomphus suzukii</i>	オジロサンエ									
						節足動物	昆虫	トンボ	サエトンボ	<i>Melligomphus viridicostus</i>	オナガサンエ									
						節足動物	昆虫	トンボ	サエトンボ	<i>Sieboldius albardae</i>	コオニヤンマ									
						節足動物	昆虫	トンボ	サエトンボ	<i>Davidius</i> sp.	ダビドサンエ属									
						節足動物	昆虫	トンボ	サエトンボ	<i>Asiagomphus melaenops</i>	ヤマサンエ									
						節足動物	昆虫	トンボ	トンボ	<i>Orthetrum albistylum speciosum</i>	シオカラトンボ									
						節足動物	昆虫	トンボ	ヤンマ	<i>Boyeria maclachlani</i>	コシボソヤンマ									
						節足動物	昆虫	ヘビトンボ	ヘビトンボ	<i>Protohermes grandis</i>	ヘビトンボ	40	0.019	幼虫	—	—	15	N.D.(2.5)	15	—
						節足動物	軟甲	エビ	テナガエビ	<i>Palaemon paucidens</i>	スジエビ	139	0.28	成体	—	—	63	N.D.(2.1)	63	—
						節足動物	軟甲	エビ	スマエビ	<i>Paratya improvisa</i>	ヌカエビ	654	0.16	未成体/成体	—	—	70	N.D.(1.7)	70	—
						節足動物	軟甲	エビ	モクズガニ	<i>Eriocheir japonica</i>	モクズガニ	5	0.066	未成体	—	—	110	N.D.(3.0)	110	—
						軟体動物	腹足	盤足目	カワニナ	<i>Semisulcospira libertina</i>	カワニナ	30	0.024	成体	—	—	54	N.D.(8.1)	54	—
						脊椎動物	硬骨魚	ウナギ	ウナギ	<i>Anguilla japonica</i>	ニホンウナギ	2	0.40	未成魚/成魚	空胃	内臓除去	183.6	3.6	180	—
						脊椎動物	硬骨魚	コイ	コイ	<i>Opsariichthys platypus</i>	オイカワ	9	0.072	未成魚/成魚	—	—	78	N.D.(4.3)	78	—
						脊椎動物	硬骨魚	コイ	コイ	<i>Candidia temminckii</i>	カワムツ	31	0.19	未成魚/成魚	—	—	48	N.D.(2.0)	48	—
						脊椎動物	硬骨魚	サケ	アユ	<i>Plecoglossus altivelis altivelis</i>	アユ	7	0.17	未成魚/成魚	—	—	132.5	2.5	130	—
						脊椎動物	硬骨魚	スズキ	ハゼ	<i>Rhinogobius fluviatilis</i>	オオヨシノボリ	15	0.045	成魚	—	—	130	N.D.(7.0)	130	—
						脊椎動物	硬骨魚	スズキ	ハゼ	<i>Rhinogobius nagoyae</i>	シマヨシノボリ									
						脊椎動物	両生	無尾	—	—	カエル類	38	0.015	幼生(オタマジョウ)	—	—	46	N.D.(11)	46	—
						粗粒状有機物	—	—	—	—	水底落葉等	—	0.25	—	—	—	162.4	2.4	160	—
F-5	太田川本流	37.6022°	140.9868°	R6.6.23		節足動物	軟甲	エビ	アメリカザリガニ	<i>Procambarus clarkii</i>	アメリカザリガニ	5	0.082	未成体/成体	—	—	17	N.D.(2.5)	17	—
						脊椎動物	硬骨魚	ウナギ	ウナギ	<i>Anguilla japonica</i>	ニホンウナギ	1	0.32	成魚	空胃	内臓除去	34	N.D.(1.5)	34	—
						脊椎動物	硬骨魚	コイ	コイ	<i>Opsariichthys platypus</i>	オイカワ	10	0.059	未成魚/成魚	—	—	11	N.D.(1.6)	11	—
						脊椎動物	硬骨魚	コイ	コイ	<i>Cyprinus carpio</i>	コイ	1	4.5	成魚	不明消化物	内臓除去	25	N.D.(1.2)	25	1.2
						脊椎動物	硬骨魚	サケ	アユ	<i>Plecoglossus altivelis altivelis</i>	アユ	308	0.96	未成魚	—	—	40	N.D.(3.9)	40	0.30
						脊椎動物	両生	無尾	アメリカカガエル	<i>Lithobates catesbeianus</i>	ウシガエル	48	0.48	幼生(オタマジョウ)	—	—	86	N.D.(1.6)	86	—

※1：生物は当該調査水域またはその周辺で採取したものである

※1：生物は、当該調査水域またはその周辺で採取したものである。
※2：水生生物を複数採取できなかった場合は、これらを混じて試料として

※2：水生生物を複数採取できた場合は、これらを混合して試料とした。

※3：複数種の混合試料においては、最も多く採取できた優占種を、和名に下線で示した。

※4：生物試料は、全個体を測定することを原則とするが、消化器系に残留した未消化の餌料や底泥等は測定しない。

※5：プランクトン（浮遊藻類）とは、湖沼水または海水を40μmのプランクトンネットで漉した残留物を指す。

※6：河床付着物（藻類を含む）とは、潮流示または潮汐示を $10 \mu\text{m}$ の範囲内に持つもの。

※6：荷休付着物（潔類を含む）とは、右に付着した潔類をノン等で強さ落としたもの。

※7 : N.D. は、not detected(検出下限値未満)を示し、括弧内の数字は検出下限値を示す。